

大盛況だった 「上越そばまつり」

十月二十八日(土)句菜交流館「あるるん畑」(上越市大道福田)で上越の味自慢の蕎麦十一種類が食べ比べられる「上越そばまつり」が開催された。Jネット交流会の参加者も宿泊場所の牧区深山荘へ向かう途中で立ち寄った。予想を超える大賑わいで午後一時の時点で売り切れ店が続出。我々が着いた頃にはほとんど閉店。唯一やっているとところも長蛇の列で試食を断念した人も多かったようだ。

上越市によると、来場者は三、五〇〇人にのぼったという。上越市が誇る北陸研究センターの新品種「とよむすめ」の無料試食は約三十分で予定の一五〇食を終了し、一杯二〇〇円の蕎麦が全十一ブースで五、六五四食分が販売されたという。

Jネットの交流会参加者も短い時間だったにもかかわらず、大いに楽しんだようだ。ほとんど売り切れだったこと

もあり、「蕎麦は雰囲気食うもの、雑踏の中では気分が出ない。」「量が少なすぎる。これでは食べた気がしない。」など辛口の意見も聞かれた。

私も蕎麦好きで、数週間ほど前に松本城で行われた蕎麦祭りに参加した。そこらは一杯五〇〇円だがきちんとした筑(さき)にのつて、量も普通の蕎麦屋の大盛りくらいはあった。それぞれの店が大きなテントの中に客席を用意し、店頭で蕎麦打ちの実演、奥でゆでたものを出してくれる。原則、売り切れは無い。一日五十万人を超す入場者?だということからほとんどが外からの観光客のようだ。

上越の「蕎麦まつり」も今回の大盛況を背景に他県から人が来る催しにまで発展させて欲しいものである。

(編集部)

